



### 授業参観&PTA 総会への参加ありがとうございました!

昨年度まで土曜日に行っていたものを、5月15日(金)の午後開催しました。今回は、5時間目の授業で、すべて学級担任の参観を設定しましたが、熱心にご参観いただき、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

参観後の PTA 総会では、様、様、様、様による役員の皆さまが中心となって、無事に開催できました。ご協力ありがとうございました。

田尻町立中学校が生徒主体の“楽しい学校”になれるよう今後とも皆さまのご理解と、あたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

### 園小中合同避難訓練を行いました!

例年恒例となっている、0~15歳までの合同避難訓練を行いました。今回は、建物の倒壊等により道路を使用することができない設定で、小・中学校校舎3階へ垂直避難の訓練をしました。訓練を重ねる目的の一つは、実際に災害が生じた際に、行動の選択肢を増やすことにあります。今回の訓練では、0,1歳の子どもをどのようにして校舎3階まですばやく避難させることができるかが大きな課題でした。そのために、本校からも教職員が事前に抱っこ体験に行くなどしたうえで、当日を迎え、階段を何往復もしながらスムーズに避難させることができました。自助はもちろん共助についても考えることができた時間になりました。

### 一学期の中間テストが終わりました!

今年初めての中間テストが終わりました。生徒の皆さんは本当によく頑張りました。テスト前の一週間は、大好きなクラブ活動をセーブしてテスト勉強に打ち込んだことと思います。特に、1年生の皆さん

にとっては、テスト範囲の広さやテスト前の長時間の勉強など、初めて経験することばかりだったと思います。もし、思うような結果が出なければ、次チャレンジする時に工夫してください。人生におけるトライ&エラーはとても大切です。重要なのは、報われる人は、必ず努力しているということです。願っていた点数が取れなかった時に、口惜しいと感じたなら、それは、大きく成長するチャンスです。テストはその時々自分をみつめ直す契機となります。時間の使い方や、学習の仕方、将来への向き合い方など、自分の捉え方次第で良い方向へと変えていけるものばかりです。すべてが思い通りにいくわけではありませんが、次の期末テストに向けて、地道に頑張ってください。応援しています。

### 修学旅行に向けて準備が進んでいます!

今年の3年生は、沖縄へ修学旅行に行きます。その中で大切にしてきたのが、平和学習です。沖縄は、81年前に、太平洋戦争でアメリカ兵と日本兵による本土決戦が繰り広げられた唯一の場所です。この時、民間人を巻き込んで23万人の尊い命が犠牲になりました。そして、この沖縄決戦では、県内にあった21の全ての中等学校・師範学校から生徒が動員され、多くの若者の命が奪われました。私たちは、この時に起こったことをしっかりと学んだ上で、沖縄に行きたいと考えています。現地では、ひめゆり平和祈念資料館での聞き取りや見学、系数壕への訪問が予定されています。「知る」と「感じる」の両方を大切に学んでほしいと思います。

同時に、沖縄に残る豊かな自然や文化も体験してほしいと願っています。マリン体験やおきなわワールド、国際通りなどで、沖縄の美しい自然と触れ合うことを通して、平和な世界を求め努力していける人に、多様な文化を感じることで、幅広い価値観を大切に思える人になってほしいと思います。3年生は、総合的な学習の時間の中で、修学旅行に向けて、心の準備が進んでいるのを実感しています。

修学旅行は「自分たちでつくる学びの旅」です。仲間と協力し、沖縄でしかできない体験を存分に味わってってください。

(校長 水上 健生)

### 今後の予定

6/1(月)	5限後下校(研修の為)
6/2(火)	【2年生】貧血検査 【対象者】検尿二次
6/3(水)	校内研究授業(6限 3A)※他クラスは5限後下校
6/4(木)	【3年生】歯科検診
6/9(火)	5限後下校(会議の為)
6/11(木)	【1・2年生】歯科検診
6/14(日)	【3年生】修学旅行前日指導
6/15(月)	【3年生】修学旅行(~17(水))
6/18(木)	【3年生】代休
6/22(月)	テスト1週間前
6/23(火)	【対象者】検尿二次
6/29(月)	期末テスト(~7/1(水))
7/10(金)	平和講話(5・6限)
7/13(月)	三者懇談(~16(木)) ※今年度より給食を実施します
7/17(金)	終業式

※7月10日 平和講話について

広島原爆の被爆者を親族に持つ、佐々木祐滋さんにお越しいただき、平和講話を頂きます。

広島への原爆投下によって2歳で被爆した佐々木貞子さんは、12歳で原爆症を患い、亡くなりました。このような悲劇を二度と繰り返さないよう、その後、同級生たちの呼びかけによって原爆投下跡地に「原爆の子の像」が建てられています。貞子さんの甥にあたる佐々木祐滋さんは、歌手活動をするかたわら、この貞子さんのことを語り継ぐ活動をされています。

昨年の田尻町の人権講話が非常に好評であったため、町役場の方が中心となってこの企画が実現しました。後日、保護者の方にも参加募集のお知らせをいたします。



## 改めて思う、田尻の良さ

先日、校舎の壁紙を修理していた時のことです。ほぼ一日がかりでの作業だったため、休憩時間や給食の運搬など、たくさんの生徒が通ります。この間の生徒の反応は実に様々なものです。

生徒①「えっ!? 教頭先生、何してるんですか?」

横井「壁紙が破れているから修理しているんです。」

生徒②「こんなん、直せるん?」

横井「前にやったことあるから直せるよ」

足を止め、何気なく質問してくれる生徒が多数を占めます。また、

生徒③「うわー! 僕もやりたい!」

横井「じゃあ、ここをこんな風に押さえてくれる?」

通りがかった際に少し手伝ってくれる生徒もいました。そして、

生徒④「直してくれてありがとうございます。」

と、丁寧にお礼を言って通ってくれる生徒もたくさんいます。

田尻中には素直で穏やかな心を持った生徒が多く、授業中も示した教材に対して素直な疑問や発見を伝えてくれます。一方で、他者の言葉に自然と耳を傾け、相手を尊重する姿も多く見受けられます。

この時期になると「我れ先に」「でも自分は…!」などと他者を制して自分の主張を述べたがる生徒が多いのが思春期の特徴です。しかしながら、幼少期からの関わりが長い仲間が多いという田尻町の地域性も手伝って、相手を良く知っているため、相手に応じた適切な関係が土台として存在するのも事実です。

この背景には、長い田尻の歴史の中で育まれた「夕陽のような温かい人柄」とも言うべき地域の方々との関わりや、互いを良く知るがゆえにそっと見守るという配慮が染み込んでいると感じます。

田尻中に赴任して初めて、当時の校長先生と校区内を歩いていた時、校長先生に気づいた年配女性から、

「校長先生、こんにちは。横にいらっしゃるのは新しく来られた先生ですか? どうぞよろしくお願いします!」

と、私にも挨拶をしていただきました。田尻町にきて1日目の私にとって「この町でも楽しくやっていける!」と確信した瞬間でした。それ以来、今も温かく穏やかな街の空気に包まれて育った子どもたちに囲まれての学校生活を送る事が出来ています。



あれから、田尻町に赴任して14年が経ちました。この間、少しずつ町並みも変わって来ました。

長く空き地だった漁港北側は子どもたちが楽しく過ごす「たじりっち公園」に。遊具の構成やバスケットボール&テニスができるコートは当時の小中学生のアイデアが生かされています。

駅前の景色は新しく様変わりし、送迎や待ち合わせのしやすいスタイルになりました。これはコロナ禍の小中学生のSDGS学習として地域の課題解決・活性化のために町の機関や地元企業とのコラボでの取り組みの一環であり、中学生のデザインした田尻にふさわしい郵便ポストが、今も登校・出勤する人々や新たに訪れる人を迎えています。

近い将来、子ども園・小中学校が新しく施設一体化され、一貫教育も新しい段階に入ります。それに向けて、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と現存の地域諸団体が連携して田尻の長所を存分に発揮した学校教育を目指す準備が進んでいます。

世の中が便利に進化を遂げる一方で、新たな課題への対処も看過できません。SNSやAIの発展により、直接対話が失われつつあります。人に聞かずにネット上の情報や人工知能に正解を求めるあまり、

「人には聞けない」、「人に頼ってはいけない」「困っても人に助けを求める事が出来ない」と感じる人が増えているように思います。

大人がそうなのですから、その影響を受けた子どもたちも確かに存在します。スマホを持つようになってから途端に直接対話が減り、人と話す事に不安を覚え、話した後も裏での評価を気にしてしまう…、そんな循環が多く見受けられます。

改めて、この町に引き継がれてきた良き伝統に立ち返りたいものです。素直に人と接し、自分の思いを伝え合う。時に相手に配慮し、された側も礼で応じる。手持ち無沙汰や時間つぶしのスマホから離れ、少し勇気をもって自分からあいさつをしてみることから始めてみてはいかがでしょうか。できれば、次の二言目を考えておくとよいでしょう。

例えば、

「おはよう。今日はなんか暑くない?」

「おはよう。〇〇の課題、できた?」

「おはよう。今日の数学、小テストやなあ」

など、天気や共通の話題、相手の様子をうかがうなど、相手が答えやすいような話題や、相手を気にかける言葉がけなどが浮かんでくるといいですね。どちらの心もきっと温かくなると思います。話しかけられた側の人は、次は勇気をもって声をかけたいものですね。

(教頭 横井武志)

